

令和 8 年 7 月（7 月号）

松江市出雲玉作資料館

資料館だより

松江市出雲玉作資料館発行

〒699-0201 松江市玉湯町玉造 99-3

開館時間 9 時～17 時（入館は 16：30 まで）

休館日；月曜日・休日の翌日 TEL・FAX（0852）62-1040

■まつえ市民講座 6 月 30 日（火）歴史コース「布志名焼の歴史と民藝運動について」

講師：出雲玉作資料館 片岡館長 参加者数：58 名 会場：市民活動センター交流ホール

「布志名焼の歴史を詳しく知ることができた。身近な陶芸に長い歴史があることに新鮮さを感じた。」「窯元がたくさんあったことが分かって良かった。」などなどたくさんの感想を頂きました。



★講演内容一部紹介

●布志名焼

黄釉水指



江戸時代には松江藩の御留色で、藩窯しか扱えなかった黄釉。初代雲善がそれまでの濁った黄色を帯びた釉から透明感のある黄釉を完成させた。

筒形火鉢



明治から昭和 30 年ごろまで生産され、人気の高かった火鉢で、遠くは朝鮮半島まで輸出されていた。その特徴として、
①上下にある孔は指が入るくらいの大きさなので、持ちやすく、どこでも運べる。
②重ねて収納ができる。
③底は上げ底で孔があることから通気性がよく、直置きしても火事になりにくい。

コンパクトで実用的であった。

●江戸時代の布志名焼 江戸時代中期、1750（寛延元）年頃に舟木与次兵衛村政により始まったとされる

布志名焼は、江戸時代には藩窯と民窯に分かれていた。藩窯は土屋・永原の御用窯が御留色であった黄釉(きぐすり)を中心とした各大名への贈答品などであった茶器を作った。度々、松江藩主七代松平治郷（不昧公）に随行して江戸を往復し、大崎下屋敷や三之丸御殿、玉造御茶屋で御庭焼の御用を務めている。一方、民窯は舟木与次兵衛村政の流れを汲む舟木系の窯が日常使いの飯茶碗、湯飲み、鉢、甕などを青呉須、藁灰などを使い頑丈でどっしりしたものを焼いていた。後にその台所用品や日用品が柳宗悦の提唱した「民藝運動」により、脚光を浴びることになった。

■7月のロビー展

無 料

出雲玉作資料館友の会主催

山下敦美 水彩画 展

7月2日(木)～7月31日(金)



.....

■【休館日のお知らせ】

7/6(月) 7/13(月) 7/21(火) 7/27(月)
7/20(祝・月)は開館します。

.....

■8月のロビー展は【関野治男 木のおもちゃで遊ぼう】です。